

“World is our lab” 海外で活躍する研究員をご紹介します！

IBM Researchの目標の一つに“World is our lab”があります。文字通り、“世界は私たちの研究所”。つまり「世界のどこでも、誰とでも～お客様や海外のラボを含む世界の人たち～と革新を生み出す研究をやっていくのである！」と宣言しているのです。東京基礎研究所からも多くの研究員が海外のラボへ飛び立ち、活躍しています。今号の日々是革新では、「研究員の人の柄に触れていただきたい」という思いをこめて、World is our labを実践する海外で活躍する研究員を紹介します。

井手剛さん

@ワトソン研究所

まずはIBM Researchの本拠地、東海岸ニューヨークのYorktown Heightsにあるワトソン研究所へ赴任している井手剛さんから。

井手さんは、昨年からはIBMのITサービスの効率化を図る研究をしているチームのマネージャーをしています。日本にいたときの研究エリアは「数理学」。ビッグデータの分析に欠かせない“あれ”です。東京基礎研究所で数理学チームを率いていた井手さんは、よくあるトランザクション・データの解析ではなく、物理センサーから取得できるセンサー・データの解析に注力していました。

船舶に搭載されているセンサー・データの解析から異常を検知した日本海事協会様の例は記憶に新しいと思います。

そんな日本での経験・実績を携えて、これまであまり縁のなかったITサービス効率化という分野へ数理学の技術を投入。まさに新しい分野を切り開こうとしている井手さんですが、赴任当初はオフィスの電球が切れていたり、オフィス(個室です!)の空調が今一つだったり、ご自身でいろいろ環境を整えているみたいです。勝手が違って大変ですね。

ちなみに、東京基礎研究所から赴任する人の中でも、マネージャーとして赴任するのはとても珍しく、井

手さんがとても期待されていることがよくわかります。きっとそう遠くないうちに、画期的なITサービスの効率化ソリューションが発表されることでしょう。



井手さん、ニューヨークを満喫中

中村大賀さん

@アルマデン研究所

東海岸の次は、西海岸アルマデン研究所に赴任している中村大賀さん。アルマデンはサンノゼ市の南側、ダウンタウンからは車で20分程度の距離に位置します。周囲は一面の野原で、庭先を散歩するだけで本格的な野生動物の観察日記を付けられるという噂も…。そんなアルマデン研究所で大賀さんは、サービス・ソリューションやクラウド系のたくさんプロジェクトを推進していま

す。大賀さんがアルマデン研究所に赴任してから約1年。最初は研究員として着任されましたが、今はマネージャーとしてグループを率えています。

東京基礎研究所に在籍中は、サービス・リサーチ・グループに所属。サービス・デリバリーの品質向上やドキュメント分析技術の適用を実践していました。先日届いたビデオ・メッセージでは「たとえ短い期間でも日本を離れることは成長につながる。ぜひ挑戦してほしい！」という力強いエールを東京の仲間たちに

送ってくれました。そんな大賀さんに置いていかれないように、私たちも挑戦と成長を続けていきたい、と心に誓うのでした。



アルマデンから届いたビデオ・メッセージの大賀さん

今道貴司さん

@ブラジル研究所

続いての登場は、サッカー・ワールドカップで賑わったブラジルから今道さん。今道貴司さんは、リオデジャネイロのIBM Research - Brazilで天然資源最適化チームの新しいプロジェクトに参画しています。

日本ではスマーター・シティーのソリューションである大規模交通シミュレーション技術の開発などを担当して

いました。成長国で社会問題となっている交通渋滞ですが、今道さんをはじめとする東京基礎研究所のチームが「コストをかけず」に渋滞を解消するソリューションを開発し、現在もケニア・ナイロビ市で実証実験が継続中です。今道さんの持つ技術が、今度はブラジルの天然資源のエリアでどう活用されるのか楽しみです。今道さんは学生時代にもブラジルに行った経験を持つ大のブラジル好きだっ

たようで、今回のブラジル赴任も大いに満喫していることが写真からも伝わってきます。Vamos、今道さん！



ブラジル研究所の仲間とカーニバルを楽しむ今道さん(中央)

立堀道昭さん

@アフリカ研究所

アフリカはケニアの首都ナイロビの地に立つのは立堀道昭さん。アフリカ研究所は、世界で12カ所あるIBM Researchの中でも、一番若い研究所です。まだ研究員も数十人で若いメンバーが多く、「まるでスタートアップ・カンパニーのよう」と立堀さんの感想。それだけ動きが早くダイナミックなのだと思います。

交通渋滞はナイロビが抱える大きな課題の一つです。立堀さんは成長国向けの交通シミュレーションの技

術を展開することで、インフラ・コストはかけずに課題解決に向かって活動しています。人口の急増、モバイルの急速な発展など、成長国ならではの「潜在機会」もたくさんあります。その機会に応えるべく、IBMはWatsonの頭脳を投入し「Project Lucy」を立ち上げました。アフリカの抱える課題に対して、ビッグデータをさらに賢く活用しヘルスケア、教育、水と衛生、農業、人の移動といった課題に、IBM Researchとパートナーの皆さんとで挑戦していきます。立堀さんも、きっとその中心として活

躍してくれるに違いありません。

About "Project Lucy"
<http://www.research.ibm.com/labs/africa/project-lucy.shtml>



今度はサバンナでキリンに乗ってくれるはずの立堀さん

鈴木豊太郎さん

@アイルランド研究所

最後に登場するのはビールもウイスキーもおいしいアイルランドのダブリンから、鈴木豊太郎さん。2013年10月から、ダブリンにあるアイルランド研究所に赴任し、スマーター・シティー、特に交通関係の研究プロジェクトに従事しています。ビッグデータ解析には、高速かつ拡張性のある基盤が必要です。鈴木さんは日本在籍中に、高いスケーラビリティを持つ大規模社会シミュレーション

基盤「XAXIS(X10-based Agents eXecutive Infrastructure for Simulation)」を開発しました。

ちなみに、ダブリン市は2010年からIBMとスマーター・シティー・プロジェクトに取り組んでいて、2013年5月にはバスネットワークの運行情報を分析して渋滞を解消するシステムの運用を開始。今後は気象データを利用した渋滞予測システムの構築などに取り組む予定です。ダブリンは市内に川が流れて自然がいっぱいでとても美しいところだそうです。

そんな都市のスマートな発展を、鈴木さんの開発した基盤が、より膨大なデータを使った複雑なシミュレーションを実行する基盤として活躍することでしょう。



左が鈴木さん。シニアマネージャーのOliverさんと

世界で活躍する研究員の皆さんをご紹介した今回の日々は革新、いかがでしたか？日本にいる研究員の皆さんも、世界の研究所、お客様と一緒に新たなイノベーションに向かって日々邁進しています。これからのIBM Researchの活躍を期待してください。